



# 岡田

## 学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と  
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども  
～笑顔で いきき 自分から～

平成30年11月30日

舞鶴市立岡田小学校  
学校だより No.10

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

## チームワークと…「綱引」と…

11月は風邪や腹痛で欠席する子が多く、安定しない気候に子どもたちも体調を崩し気味でした。山の木々も一気に紅葉か…と思いきやそうでもなく、グラウンドのイチョウだけがやっとなり黄色く色付いて秋の青空にあざやかな姿を見せています。以前は银杏の実を子どもが集めていた時期もあったと聞きますが、今は…。

11月には人権学習や合同音楽会、駅伝大会など、子どもたちの活躍が多く見られました。また、地域の方のご支援により、堀川ゴボウやあずきの収穫を体験することができました。子育て支援協議会主催の「わくわく広場」では、収穫した小豆やゴボウを使ったおいしいぜんざいや雑煮をいただきました。

P T A 体育部の方々を中心に、男女1チームずつの「綱引チーム」が結成され、来る12月2日（日）の「舞鶴市民綱引大会」出場（子どもたち3チーム出場）に向けて猛練習が続いています。練習では筋肉痛に悩まされながらも、全力で綱を引く姿は真剣そのもの。へトへトになりながらも清々しい笑顔が見られます。スポーツ競技としての綱引は、1900年パリ大会から1920年アントワープ大会まで、オリンピックの種目でもありました。日本でも古来から、五穀豊穡祈願や豊作豊漁の祝いなど、全国各地で神事として行われ、現在も多く地域に残っています。

最近では運動会の定番種目として定着していますが、以前のように「オーエス」の掛け声はあまり聞きません。「オーエス」の語源はフランス語。水夫が船の帆を引き上げるときの掛け声「オーイス」(oh hisse)」で、明治時代に綱引競技が伝わった際、外国人選手の掛け声を日本人が聞き間違えたと言われていました。

「せーのっ！引っ張れ！」という意味ですが、どこの国でも掛け声は大切。人力が全ての時代から、気持ちを揃え力を合わせないと仕事ができないことは、みんな知っていたので、誰かと荷物を運ぶときは自然と掛け声が出たものでした。友達と力を合わせるということは、単純なパワーのたし算ではありません。綱引でも、ただ力自慢がそろっただけでは勝てないことがよくあります。学校でも、「力を合わせて…」はよく使うフレーズですが、力を合わせるってそんなに簡単なことじゃないです。心を合わせお互いを信じ、タイミングを合わせて動くには、仲間を思いやる心をしっかりと持つことが重要なのです。力と心がそろった一体感は、切磋琢磨してみんなで苦勞するチームワークから生まれることが多いです。プロ野球選手で、連続試合出場の世界記録を樹立した広島カープの「鉄人」故 衣笠祥雄 氏は、「人間、自分ひとりでできることには限界がある。だけど、人と力を合わせると不思議なことに不可能も可能に、夢も現実になっていく。だから、出会う人を大切にすんだよ。」という言葉を残しています。綱引では、駆け引きもあり技術的にも難しいのですが、仲間を信じ課題を乗り越えようとするチームワークも必要です。それを支えるのは紛れもなく良好な人間関係だと思えます。子どもの世界でも同じです。素晴らしいチームワークはよりよい人間関係から生まれます。綱引で全力を出すときも駅伝で完走するときも、合唱で声を響かせるときも、よい人間関係（チームワーク）が、一人では不可能な心のパワーを生み出すのです。



【グラウンドのイチョウ】



### 小中一貫で子どもを育てる…⑧

#### 小小連携 舞鶴市小学校合同音楽会

11月14日（水）に、舞鶴市総合文化会館で舞鶴市小学校合同音楽会があり、本校と由良川小学校の5・6年生が合同で参加しました。お互いの学校を行き来しながらの練習で、苦勞しましたが、子どもたちは息をぴったりと合わせ、真剣

な表情で発表していました。加佐中学校音楽科の先生（高橋先生）にもしっかりとご指導いただき、素晴らしい歌声をホールに響かせることができました。様々な合同学習をとおして、仲間とともに学び高め合いながら成長する姿が見られました。連携をさらに深め今後につなげたいと思えます。



【舞鶴市小学生合同音楽会】

校長 波多野 暢 教職員一同